

神道夢想心流 日本杖道会会報

第22号

平成19年8月20日

編集・発行

日本杖道会

浪合神社奉納武道

第六回 各流武道演武会

大会総務委員長
慈恩館道場 丸山文章

一心流鎖鎌術流祖慈恩ゆかりの地、浪合に神之田会長を始めとする日本杖道会の面々が、初めて足を踏み入れたのは平成十二年七月の事でありました。

あれから七年目を迎えた今年も七月七日・八日の二日間、第六回と銘打って各流武道の研修会及び演武会が盛大に開催されました。

初日(七日)は飯田市武道館において午後一時より神之田師範の御指導により、翌日奉納予定の各流武道の稽古会が行われました。(会員参加者四十四名) ちよつと半日では時間が足りない様子でしたが、何とか翌日の準備が出来ました。

二日目は昨年同様シルクホテルを午前八時出発、念流山入口には八時四〇分頃全員到着。登山する者と神社御前を準備する者に分れ、それぞれ予定の十時には全員神社御前に集合し、演舞会が始まりました。

見学者は地元神社関係の皆様を始め、小

中学生から一般の方々まで六十余名の皆様方の注目の中、式次第に添って進められました。

演武前の奉祝の儀では佐藤政子こと藤かほりさんの三番叟そして杖道の歌、さらには亀卦川慧先生の詩吟で露払いが行われました。

そして浪合神社総代近藤喜重様の歓迎の御挨拶、その後は神之田師範の説明により肅々と各流演武が進みました。剣術、杖道、居合、短杖、十手そして鎖鎌と。

昔を忍ばせる多くの古い立ち木と新緑の中、「えいっ」と気合いの掛け声も心地良く神社境内に響き渡りました。十一時には終了し、一昨年建立した記念碑の前で一服、そして流祖慈恩の念墓に線香を備え、小学校体育館に移動をしました。

予定通り大会は午後一時に開会され各流武道の演武、そして今年で六回目となる一心流鎖鎌術の技を競う大会が行われ、参加

者全員が入賞ということで盛会でした。また中間には見学された小中学生五十余名が神之田師範から杖道の基本について教わりました。

アメリカからホームステイしている子供達が居たことから、会員のマイケル氏とライアン氏が手本となり指導も非常に好評でした。この子供達の中からぜひ杖道をやってみたいと思う人が出られることを期待する次第です。三時には大会終了、三時半には解散となりました。

午後六時からは恒例となりましたホテル花菱において、有志による懇親会が開催され、地元からは伊藤義寛前村長、佐々木重義前教育長、近藤守孝史跡保存会長、川上薫自治会長、寺澤善周克翁院住職のご臨席と会員十九名の参会によつて盛会に行われ、楽しい懇親会であった。

昨年同様、佐藤政子氏の歌には感動いたしました。さすがプロです。新曲の発表が行われた「ああ夢想権之助」これはぜひ覚えたいと思っております。御来賓の方々にはそれぞれ御挨拶をいただき、この行事が末永く続けられますよう、励みのお言葉を頂きました。

七年目となったこの行事も地元の多くの皆様からご支援を頂ける様になり、私達会員の志す気持が充分伝わった様な気がします。二日間の慌ただしい日程でありましたが今回も事故もなく無事に行事を終了することが出来ました。

来年は慈恩が浪合に入つて六百年という記念すべき年となります。多くの皆様方のご参加を祈念いたしまして経過報告を兼ねてご挨拶申し上げます。

(※奉納武道大会下記写真参照)



